



放射線を正しく理解した看護職であるために 改訂版 看護と放射線

(公社) 日本アイソトープ協会 編集・発行



看護職は、放射線診断や放射線治療を受ける人、放射線管理が必要な環境で働く人、原子力・放射線事故の際に周辺の地域に居住する人等、様々な状況で放射線被ばくをする人やその可能性がある人の看護をします。看護職自身も業務によっては職業被ばくの管理の対象となります。

医療の場では、がん放射線治療、IVR 治療等の分野で働く看護師やがん看護専門看護師、がん放射線療法看護認定看護師として活動する看護師も増えました。学会活動等を通して、放射線に関連する看護学の知見も蓄積されてきました。しかし、2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故後には、地域の多くの人々が生活や健康、育児に関わる放射線被ばくの問題に直面し、保健師、看護師は未経験の状況で看護活動を行って来ました。

一方、看護の基礎教育課程では、数十年にわたって放射線に焦点を当てた教育がされてきませんでした。このような状況を踏まえて、看護基礎教育における放射線教育の必要性が強く認識され、日本放射線看護学会等の活動もあり、2017年から学士課程の看護学教育のモデルコアカリキュラムに「放射線」に関連して以下の2項目を含むことになりました。

- 1) 放射線の医療利用、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策
- 2) 自然災害、人為的災害(放射線災害を含む)等における被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法

このような流れの中で、教員育成のために2016年から日本アイソトープ協会が文科省の研究助成を受けて「トレーナーズトレーニング研修」を行い、教科書とし

て同協会から発行された「看護と放射線—放射線を怖がらない看護師であるために—」(2016年)が使用されました。本書はその改訂版です。

改訂版の構成は、初版の[基礎編][演習編]に新たに[グループワーク編]が加えられました。[基礎編]では、放射線とその利用、被ばくと被ばく防護、放射線・放射線の量と被ばく線量、放射線被ばくの健康影響等、看護職として必要な基礎知識が、最新の資料に基づいて、豊富な図表やコラムを入れて分かりやすく提示されています。[演習編]では、自然放射線測定、遮蔽・距離の被ばく防護効果、ポータブルX線撮影装置周辺の被ばく線量測定等の方法が具体的に示されています。[グループワーク編]では、医療被ばくを受けた人の胎児、発がん、遺伝性影響の不安、原子力事故時の地域の人々の健康不安等、8つの相談例を示しています。

放射線に関わる看護職の役割は、様々な状況で被ばくする人の心身の健康と生活への有害な影響を判断し、緩和することにあると思います。それゆえ本書で取り上げている放射線の人体に与える影響や、防護の基本的な考え方を理解していることが第一に必要です。本書はそのための行き届いた手引きになるでしょう。2018年に発行された「放射線のリスクを学ぶ—保健師のためのテキスト—」((公社)日本アイソトープ協会)と共に、放射線看護の基本的なテキストとして今後活用されることと思います。

これからも看護職は、放射線診療を受ける患者さんの不安に対応し、通院治療を受けるがん患者さんの生活におけるセルフケアを支援し、あるいは放射線事故等の際に、将来の生活に重大な影響を及ぼす判断を迫られる人を支援することがあるでしょう。そこでは放射線の身体的影響だけでなく、不安等の心理的影響に対するケアをする力も必要です。

我が国では第2次大戦中の原爆による被ばく、医療被ばく事故、放射線作業員の過剰被ばく事故、原子力発電所事故等、放射線による深刻な出来事を経験しました。それは放射線に対して人々に強い負のイメージを印しました。このことも認識したうえで、看護職は、当事者の放射線被ばくの状態やその受け止め方、確率的影響のリスクの捉え方、被ばくが生活に及ぼす影響に対する考え方を理解して、心理的反応の支援をすることが求められます。経験から学ぶ知識を積み重ねて、看護と放射線のテキストが充実してゆくことを期待します。

(別所 遊子 神奈川県立保健福祉大学名誉教授)

(ISBN978-4-89073-284-5, B5判, 190頁, 定価2,750円(本体2,500円), 会員価格2,475円(本体2,250円), (公社)日本アイソトープ協会, ☎03-5395-8035, 2021年)